

国際メディカル専門学校 卒業の認定に関する方針

本学は、現代社会の要請、特に病院・医療機関や介護施設をはじめとする医療福祉業界において求められている人材の育成を目的としている。そのため、実社会で要望され、卒業後すぐに役に立つ資格、技能、知識を備えた「スペシャリスト」を育成する。また、豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成、資格・技能・知識を持つと同時に、社会的常識と基本マナーを備え、明るく健康で、建設的な意志をもった医療技術者を養成する。

<国際メディカル専門学校の教育方針と3つのポリシー>

教育方針：よりよい医療人・社会人の育成輩出を通して、地域社会・国家・国際社会に貢献する

同方針を達成することを念頭に、各科がそれぞれ3つのポリシー【卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）、教育指導方針（カリキュラム・ポリシー）、入学受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】を掲げる（各科の3つのポリシーは資料最下段の表で示す）。

各科が卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）として掲げる能力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に卒業証書および専門士を授与する。

<卒業認定に関わる学則（抜粋）>

（教育課程修了・卒業の認定）

第26条 第4条に規定する当該学科の修業年限以上在学し、かつ、別表2に掲げる当該学科の教育課程を修了した者について、校長は該当学科教員会議の議を経て、卒業を認定する。

2 単位制学科について、第4条に規定する当該学科の修業年限以上在学し、別表2に掲げる当該学科の教育課程において、第23条に基づき修了すべき単位をすべて修得した者について、校長は該当学科教員会議の議を経て、卒業を認定する。卒業時に修了すべき単位を修得しない者は、卒業延期とし、単位を修得した時期に卒業を認定する。

3 校長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書（様式4）を授与する。

（称号の授与）

第27条 本校所定の教育課程を修了した者には、右欄に掲げる専門士の称号を授与する。

学科名	専門士の称号
臨床工学技士科	医療専門課程
医療事務総合学科	医療専門課程
看護学科	医療専門課程
鍼灸学科（昼間部）	医療専門課程

鍼灸学科（夜間部）	医療専門課程
診療情報管理士学科	医療専門課程

（資格の取得）

第 28 条 本校所定の教育課程を修了した者には、右欄に掲げる受験資格を与える。

学科名	試験の種類
看護学科	看護師国家試験 保健師学校養成所 助産師学校養成所
鍼灸学科	はり師、きゆう師国家試験
臨床工学技士科	臨床工学技士国家試験

国際メディカル専門学校 教育方針と3つのポリシー

教育方針	よりよい医療人・社会人の育成輩出を通して、地域社会・国家・国際社会に貢献する。				
アドミッションポリシー (共通人材受け入れ方針)	本校の求める共通の入学受け入れ人材像は以下の通りです。 1. 将来、医療分野へ従事することで人々を幸せにしたいと考えている人 2. 何にでも関心を持ち、積極的に学び、自らを磨いていく意欲と向上心を持ち合わせている人 3. 周囲の人への思いやり、感謝の心を持ち、チームワークを大切にできる協調性を持つ人				
ディプロマポリシー (共通卒業認定方針)	本校の求める共通の卒業認定人材像は以下の通りです。 1. それぞれの国家試験・認定試験合格到達レベルの知識、医療専門職として必要な技術・技能、および医療人としての倫理観を持っている。(医療従事者として必要な知識・技術・心構え) 2. 社会人として自立し、自己の人間的成長と専門分野について、探求心と向上心をもって自己研鑽できる。(社会的自立、自己研鑽) 3. チームの一員として関連分野スタッフと協働し、自職の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる。(チームの中での責任と役割) 4. 国際社会および医療ニーズの変化に問題意識と前向きな受け入れ姿勢を持ち、生涯を通して柔軟な対応と課題解決に取り組むことができる。(課題抽出と解決、生涯学習)				
学科	臨床工学技士科	看護学科	鍼灸学科(昼・夜共通)	診療情報管理士学科	医療事務学科/医療秘書・医薬品アドバイザー学科
各科院アドミッションポリシー (人材受け入れ方針)	チーム医療の一員として、医師、看護師をはじめ様々な医療職種と連携し、医療機器と患者の懸け橋となる臨床工学技士を目指すため、以下の気持ちを持つ方の入学を望んでいます。 1. 家族、友人はもとより、他者を思いやる心を持っている人 2. 素直な心を持っている人 3. 協調性を持ちコミュニケーションが取れる人 4. 向上心を持っている人	「看護を志す人」が、質の高い看護を提供できる「実践者」として成長できることを目的として教育を行います。したがって、看護の実践者に成長できる素地を持つ以下の人物像を持ち合わせた人材の入学を望んでいます。 1. 明るく健康な人 2. 人のお世話をすることが好きで思いやりと気遣いができる人 3. 受け答えのコミュニケーションが取れる人 4. 向上心を持った人	1. 鍼灸や身体(健康)に興味を持ち、困っている人の助けになりたいと思っている人 2. 「こんな鍼灸師になりたい!」という志を持ち、向上心を持って物事に取り組む人 3. 人と接することが好きで、他者に対して心配りや感謝が出来る人	1. 思いやりをもち、人のために働きたいと考えている人 2. 向上心をもった人 3. コミュニケーション能力のある人	
各科院カリキュラムポリシー (教育指導方針)	本科では、『臨床工学技士は、様々な医療職種と連携し、医療機器を通じて、安心安全適切な医療の確保に努めなければならない。』と考えております。従って、医学と工学の知識を融合し、他医療職種と連携しつつ別視点で物事を捉えられるよう、以下の目標に基づきカリキュラムを構成しています。 1. 数学、物理など理工学の基礎を学び、医工学分野に活用できる力を養う。 2. 人の構造および機能、臨床医学(疾患について)など医学知識を学び、生体機能代行技術に関連づけられる力を養う。 3. グループ学習、学内実習、臨床実習などを通して、チームワークに重要なマナー、社会性、協調性を身に付ける。 4. 課題研究、臨床実習などを通して、現代医療の問題点を探索する気持ちを養う。	本科では『看護』を「生命の尊厳と人間愛を基盤としてあらゆる健康の段階にある人が、よりよい生活を送ることができるよう援助することであり、対象の思いを感じることからはじまり信頼関係のうえで成り立つ」と考えています。従って、カリキュラムは『看護』をもって国内および海外にと広く社会に貢献できる人材を育成するために、教育目標を以下の7つに定め、学年ごとにそれぞれ目標を設定し、科目配当し、系統的・段階的に学習できるように組み立てています。 1. 人間を尊重し感性豊かな人間性を養う。 2. 人々の健康を自然・社会・文化的環境とダイナミックな相互作用の観点から理解できる能力を養う。 3. 対象の看護上の問題解決的アプローチができる基礎的能力を養う。 4. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を担うことができる。 5. 看護の本質を理解し、自らの看護に対する考え方を明確にすることができる。 6. 看護の国際化の観点から、国内のみならず海外にも目を向け、国際看護の視点を養う。 7. 生涯にわたって看護を探究する継続的態度を身に付ける。	本学では、鍼灸師とは「東洋医学と西洋医学の知識とはりきゅうの技術を用いて自然治癒力を高め、疾病の治療・予防を行うとともに、医師や他の医療従事者と連携を図る者である」と考えております。従って、そのような人材を育成するために以下の目標を定め、カリキュラムを構成しています。 1. 人の構造や機能について学び、西洋的・東洋的診察法を身に付け、患者の状態を把握する能力を養う。 2. 豊富な実技授業を通して実践的な技術を習得し、自身の望む分野で活用する能力を養う。 3. 症例検討や臨床実習などを通して、専門的な知識を患者や他の医療従事者にわかりやすく伝える能力を有する人材を育てる。 4. 臨床論や臨床実習を通じて適切な治療方針を立てる能力を養う。 5. 予習復習を促し自ら学習する習慣を養う。 6. グループワークを通して、他者と協力して課題を解決する能力を養い、またチームワークに必要なマナー、社会性、協調性を身に付ける。 7. 様々な学校生活やボランティア活動を通して、倫理観、責任感、協調性を身に付ける。	本科では、以下の5つの目標を達成するために、講義・演習・実習を効果的に組み合わせカリキュラムに沿った教育を行っています。 1. 社会人として必要な常識、マナー、礼儀を身につける。 2. チームの一員としてのコミュニケーション能力を養う。 3. 診療情報の管理に必要な情報処理の技術・知識を身につける。 4. 病院経営の分析に必要な技術・知識を身につける。 5. 診療情報管理、医師事務作業補助、医療事務の知識・技能を身につける。	本科では、以下の5つの目標を達成するために、講義・演習・実習を効果的に組み合わせカリキュラムに沿った教育を行っています。 1. 社会人として必要な常識、マナー、礼儀を身につける。 2. チームの一員としてのコミュニケーション能力を養う。 3. 様々な立場の患者さんに対応できる接遇の知識を養う。 4. 医療の場で必要な情報処理(医事コンピュータ、電子カルテ)の技術・知識を身につける。 5. 医療事務として必要な専門知識(診療報酬請求、医学など)を身につける。
各科院ディプロマポリシー (卒業認定方針)	本科では、臨床工学技士として医療機器のスペシャリストを目指すため、以下を身に付け医療現場に出ることを想定しております。 1. 他者の気持ち(患者様や医療スタッフ)を考えた言動ができる。 2. 周囲の変化(患者様の容態や機器の異常など)に気づき、自身の知識、技術を用い、他医療職種と連携し、その対応ができる。 3. 自ら積極的に学び続ける気持ちを持つことで、より良い医療を提供できるよう、最新医療技術への順応力を備える。 4. 医療現場の安全を高めるため、新たな安全対策および医療機器のニーズを考える能力を備える。 5. 医療事故を低減するため、ほうれんそう(報告連絡相談)が的確にできる。	本科では、『期待される卒業生像』を以下の6つに定めています。 1. 人間を尊重し、よりよい人間関係を築くことができる。 2. 看護の本質を理解し、自身の看護感に基づいて責任ある看護が実践できる。 3. 社会の一員である対象を総合的に理解し、科学的根拠を持った看護が実践できる。 4. 保険・医療・福祉チームの一員として、他職種と連携、協働することができる。 5. 専門職として生涯学習し続ける積極的な行動をとることができる。 6. 国内及び海外の看護の動向に関心を持ち自己研鑽できる。	本科では、『期待される卒業生像』を以下の4つに定めています。 1. 専門的な知識・技術に社会に役立つ能力が備わっている。 2. 自らの課題を見つけ出し、解決する能力が備わっている。 3. 卒業後も学び姿勢を維持し、成長する気持ちが備わっている。 4. 医療人としての倫理観、責任感、協調性が備わっている。	本科では、『期待される卒業生像』を以下の3つに定めています。 1. 人と協力して仕事をすることができるコミュニケーション能力を身につけている。 2. 身につけた専門性を現場で発揮することができる行動力がある。 3. 診療情報管理士、医師事務作業補助者、医療事務に関する専門的なに関する専門的知識を身につけている。	本科では、『期待される卒業生像』を以下の3つに定めています。 1. 人と協力して仕事をすることができるコミュニケーション能力を身につけている。 2. 身につけた専門性を現場で発揮することができる行動力がある。 3. 受付事務、診療報酬請求事務(医科・歯科・調剤・介護)、登録販売者に関する専門的知識を身につけている。

国際メディカル専門学校 教育方針体系図

